

投句欄 自由律の泉

28

- |    |                     |         |    |                                   |        |
|----|---------------------|---------|----|-----------------------------------|--------|
| 1  | 店の秋ほのかほどけるほどの茶碗     | 野谷 真治   | 11 | 向いの金木犀 秋風に運ばれ我家にも                 | 増田 壽恵子 |
| 2  | 夫婦仲良く栄養よろしくブランチする   | 大岳 次郎   | 12 | 葛草 <small>つるくさ</small> が茂り始めて背丈伸ば | 和寄 はると |
| 3  | 田の話に耳傾けてる父遺影        | 鈴木 和枝   | 13 | 「元気をあげるね」と言う人の手のぬくもり              | 山本 説子  |
| 4  | 金魚鉢 ひとりぼっちが涼しい      | 金澤 ひろあき | 14 | くるくると丸文字の群わが手帳                    | 井尾 良子  |
| 5  | 枯草に秋涼               | アカホリ フキ | 15 | 二歳児とあそべばたちまちメルヘンの世界               | ちば つゆこ |
| 6  | 浮いた菊の花びら一人呑む        | 木村 浩    | 16 | 猫背だった父が枯葉のショーウインドー                | 平林 吉明  |
| 7  | 諺に導かれて老いの道かるく       | 竹内 朋子   | 17 | この街に溶け込むように暮らし遠くなる古里              | 黒瀬 文子  |
| 8  | いまは巨大な墓場に見えるあこがれの都会 | 無 一     | 18 | 時を待つ蕾の命の深呼吸                       | 荻島 架人  |
| 9  | 振り向き振り返る母点になる       | 原 さつき   | 19 | お別れもなく大きな目だけが落ちている                | 平岡 久美子 |
| 10 | 空とぶまま 土にトンボひとり      | 雨 水     | 20 | おどしたりすかしたり不機嫌な体とつきあう              | 久光 良一  |
|    |                     |         | 21 | 点呼とりますか 生きていますか                   | 新山 賢治  |

- 22 この夏を物語る縁枯れの紅葉 佐瀬 風井梧
- 23 地を這いずり回る私の杖 富永 鳩山
- 24 今年の金木犀 なぜか大きく香る 白松 いちろう
- 25 じつとしたままもつれている紐の性分 富永 順子
- 26 老体を投げ出す露天風呂ひとり 泥谷 文吾
- 27 雑草摘む摘む 老後がこんなに長いとは 見崎 厚志
- 28 名前間違つてばかりの老母の思い出は鮮やか 青井 こおり
- 29 過疎村の産業祭が出来るのか苛立ちの雨 田中 直心
- 30 青から赤く嘘つきながら熟していく 一の橋 世京
- 31 闇に吠えるフィリピンの細い犬 佐川 智英実
- 32 風にあそばれて落葉だんだん寄り添う 原 鈴子
- 33 老いきれない魂の燃えかすのくすぶり 部屋 慈音

● 泉<sup>27</sup>より 一句鑑賞

怖くない生きた分だけ死んできた

泥谷 文吾

▼非常に強くひかれましたので、選ばせていただきました。(無 一)  
▼戦後の混乱期を含めて、九十年生きてきた私の人生にも、いろいろな修羅場があった。体のあちこちに不具合を抱えていつどうなるか解らぬ今の私だが、あの頃のことを思えばまあなるようになるだろうと思っ  
ている。(久光良一)

今が終らない杖が歩く

富永 鳩山

▼「今」が大切であって、今しかないし「今」生きていることです。その人生の道を杖をつきながら確かに味わい生きています。やさしい表現引き締まった表現であり、わかりやすく誠実さを感じさせられました。

(大岳 次郎)

▼深い宗教的知見で表現されているように思われます。永遠の時間の上を「人」は互いを杖として歩いていくといったことでしょうか。現実というパズルには、いくつものピースが欠けているような気がしました。

(雨 水)

▼重い足でゆっくりと道筋をゆく作者の姿が浮かび上がる。「生きていることは動くこと」動けば何かが変わるはず、その固い決意を受け止めたい。

(新山 賢治)

▼命は終わりそうで終わらない、しかし今何が起きるかはわからない。しかしながら、資するまで杖を突いて歩くのだとの教訓と受け止める。

(白松 いちろう)

▼玄関にいつも杖があり、一歩でも二歩でも散歩ができる。歩くが句をつくる。

(泥谷 文吾)

▼とぼとぼと、とぼとぼと、支える杖が浮き出てみえます。

(見崎 厚志)

しらないひしらないしひとり

平林 吉明

▼「し」と「ひ」と「ら」が、ひびき合っている。何度か読む、声に出して読む。ひしひしと、一人、石(又は、意志)を感じるのです。

(野谷 真治)

思い出になりそうな母の巾着

佐川 智英実

▼この句を拝見して母を思い出しました。貧乏生活の中で男の子三人を育ててくれて感謝に堪えません。その母が残してくれたいたハブ茶の種を植えて、豆茶をやかんで沸かして毎日飲んでいきます。お茶は手づくりです。

(和寄 はると)

「観」ている先は生きていますね

大岳 次郎

▼「観」とは心の中で深く考えつつみること、**「見」とは違う。**日々何を観るかで、人生も決まって行くような気がする。私は何を観ているのか。問いかけられる句だ。

(金澤 ひろあき)

北風の立喰おにぎり

野谷 真治

▼北風の中でほかほかのおにぎりは、身も心も温まりさぞ美味しかった事でございます。同じように立ち喰いおにぎりを食べてみたくなりました。温かい句でございますね。

(山本 説子)

▼最近おにぎりのお店が増えているようです。手軽におなかを満たしてくれ、母が握ってくれたお結びを思い出したりして。野谷さんはなにを急いでいたのですか？ 今頃天国でおにぎりを食べているのかと悲しくなります

(平岡 久美子)

明日もまた生きるのか星降る夜を覚めている

久光 良一

▼「また」の言葉に切なさを思います。星の数ほど程頑張って頂きたいと願っています。心のオアシス星空、「星に願いを」を口ずさみたくなりました。

(竹内 朋子)

▼「星降る夜を覚めている」は絶妙な表現で、若い時とは違う毎日を送っている高齢者の鬱々とした気持ちが詩的に表現された。(富永 鳩山)

着ぶくれてほっこり笑顔落の臺

植田 鬼灯

▼我家にも小さな落畑があります。春一番に出てきてくれます。とても嬉しいです。そしてとてもおいしいです。今夏の酷暑の水やりがんばりました。なんとか無事でした。来春が楽しみです。

(増田 壽恵子)

初恋を隠しておきたい月のうら

原 さつき

▼ずっと今も思い続けている恋、それは心の隅に、いや月の裏に隠し通したい。

(鈴木 和枝)

▼少し前に同窓会が有りまして、同感です。

(木村 浩)

▼頬を赤らめた顔を月の裏からはずかしそうにのぞかしている。そんな乙女心がなんとも初々しい。その瑞々しい心の風景に乾杯。(新山賢治)  
▼初恋は、自分だけの思い出にしておきたいものですね、大きな月のうらなら大丈夫ですね。(田中直心)

つめたくなつた手 はなさない

雨水

▼人が亡くなるといふことはなんと悲しくつらいことか、まして愛する人ならなおさら。だんだんつめたくなっていく手、永遠にこのままでいられたら、心につきささる一句です。(井尾良子)

今まさに飛び立つ用意綿毛と私

ちば つゆこ

▼充分生きたという誇りと覚悟を感じました。次のステージも綿毛のように自由に、どこまでも飛んでいけそう。(原さつき)

一緒に笑える花が咲いた

萩島 架人

▼小さな喜びの中に寂しさが感じられて、心がぎゅつとしました。

(富永順子)

これが姉花びらのような骨片拾う

黒瀬 文子

▼亡くなった近親者の骨を拾う際には何とも言えない気持ちになりますが、「花びらのよう」と喻えられたその骨からは、美しさ、儚さ、哀しさが伝わってきます。(青井こおり)

▼作者の悲しみが「花びらのような骨片」で、一層強くなります。

(ちば つゆこ)

▼兄弟の別れはかなしい。近年私も四人兄弟のうち二人の兄が続けなくなった。句の姉を思う気持ち喪失感が伝わってくる。(佐瀬 風井梧)

通過駅の川べりにも桜満開

平岡 久美子

▼通過駅には取り残されたような寂しさを感じます。そのあまり人の来ない川べりにも桜は分け隔てなく咲き誇り、取り残された「通過駅」だからこそ満開の桜がより美しく思えます。(平林 吉明)

### ● 係より

次回も、皆様の作品一句と、今回の作品の感想をお寄せください。左記宛て、同封の投句用紙、またはメールにて。いいなと思う句に出会ったら、感想だけの投稿も歓迎です。

〈送り先〉〒193・0832 八王子市散田町2・58・4

平岡久美子

メール izumi.jiyuritsu@gmail.com

※投稿先のメールアドレスは右記に変更になっています。

〈締め切り〉 2026年 2月15日

★「自由律の泉」にご投稿いただいた句や感想は、自由律俳句協会のホームページや公式X、機関誌などの協会発行物でも紹介させていただきます。